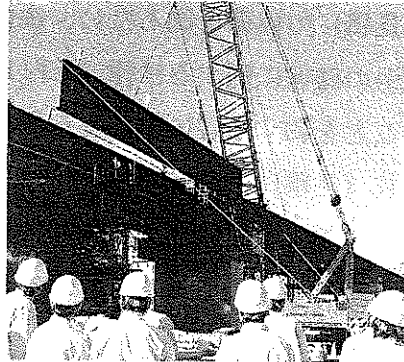


釧路土現が武佐の森大橋見学会

### 生の工事を肌で実感

#### 高校生72人が桁架設等見学



武佐の森大橋は、釧路市街地の交通渋滞緩和を図るバイパスとして、釧路環状線の武佐川付近で架設を進めている橋長四百七十三メートルの長大橋。同土現最大の

【釧路発】釧路土現は十六日、釧路環状線「武佐の森大橋」の現地見学会を実施。釧路工業高校土木科の生徒七十二人が桁の架設を間近で見学したほか、ホルトの軸力判定も実際に体験し、生の工事を肌で実感する一日となった。

橋長となる構造物であり、事業のPRを考えていたところ、釧路工業の生徒が同土現にインターンシップに訪れた際に見学の話を持ち上がり、両者の希望が一致し見学会が実現した。当日は、宮坂・北野・岩倉特定JVが施工している

「釧路環状線道路改良武佐大橋上部架設」の現場を見学。同JVの全面的な協力によって、土木科の二年生七十二人が午前、午後に分かれ生の現場を体験した。はじめに野田功事業課長が交通渋滞解消などを旨指す同事業の概要を紹介し、続いて市川知司主任が工事概要を説明。また、現場代理人の福浦弘幸氏（宮坂建設工業）が準備工、ヤード造成、ベント設備組立、支承設置といった実際の工事の流れを説明した。

さらに、同JVの藤井太氏（北野組）が「橋梁工事の豆知識」を紹介。同JVがこの日のために作成したテキストをもとに、橋脚、橋台などの橋の各部分の名称や、桁橋、アーチ橋などの橋の種類、ベント工法など主桁架設工法の種類を説明入りで分かりやすく解説したほか、耐候性鋼や主桁の継手ホルトの種類と性質についても説明した。

このあと、実際の架設現場に移り、桁となる鋼材を百五十トクローラークレーンで吊上げ、据え付ける様子を見学し写真撮影。また、トルシア形高力ホルトの軸力判定の実習も行い、生徒の代表数人ずつが実際にシャーレンチでホルトを締め、軸力計の値を測定した。生徒たちは武佐の森大橋の大きさはもとより、本物の機材を持ち、作業の一端を経験できたことを非常に喜んでおり、普段は接することのできない工事現場を身近に感じた一日となった。